

## 地震の時

震災時は、大学が春休み期間でした。その日は、祖父と弟と3人で自宅にいました。地震が起きた時、揺れが今までに経験したことがないくらい大きいものだったので、「すぐに逃げなきゃ」と思いました。そこで祖父と弟を車に乗せ、閑上公民館のグラウンドに避難しました。その時は正直、津波が来るかどうかというより、「今の地震って宮城県沖地震かな、これからどうなっちゃうのかな」ってことばかり考えていました。

公民館に避難した後、防災無線も聞こえなくて、弟が持ってきたラジオから「高台に逃げてください」とアナウンスがあって、公民館より高い建物は閑上小学校か閑上中学校だったので、とっさの判断で小学校に移動することにしました。車で小学校に避難する際に、中学校に向かう車が渋滞しているのを見たので、渋滞を逃れるために脇道を通りました。

私が小学校に着く頃には、津波がすぐ近くまで迫っていました。車から降りた時に「津波が来るぞー、早く上に上がれー」という叫び声が聞こえたので、一目散に校舎の3階まで上がりました。もし、脇道を通ってなかったら、逃げ遅れていたかもしれません。

校舎の3階から黒い波が押し寄せるのを「本当に津波が来たんだ」と呆然と眺めていました。

## 小学校に避難

小学校の教室の床は、タイル貼りで底冷えが激しかったため、とても床に座っていただけませんでした。そこで底冷えを防ぐために画用紙やカーテンを床に敷いて、辛うじて寒さをしのいでいました。私は寒さによる体力の消耗を防ぐ意味で横になっていました。津波によって流されてきた、がれきと大量の海水によって孤立した状態になり、水が引かないと自衛隊が救助に来れないと学校の先生から話がありました。

小学校で1晩過ごすことになり、何もすることが無かったので、教室の窓から遠くを見て、「家は大丈夫か」という心配をしていました。周りにいた人たちは、携帯電話で家族や友人の安否確認をしていました。また、ラジオ等で情報の収集もしていました。余震が起こるたびに、「いつになったらこの揺れは収まるのだろう」という不安を抱えながら、夜が明けるのを今か今かと待っていました。学校の先生方は、自分たちの家族の安否の不安を抱えた中でも、水が止まってしまったトイレ掃除を行うなど精力的に動いてくれました。

次の日の朝、自衛隊ががれきをかき分けて救助に向かっているという連絡を小学校の先生から受けて、「よし、助かった」と安心しました。自衛隊が着いた時に、救援物資としてパンや飲み物が配布されました。その後先生から、「名取市内の別な小学校に移動するように」との連絡を受け、迎えのバスが来るまで教室で待機していました。その間、続々と自衛隊員に救助された人たちが、小学校に運び込まれている様子を見て、衝撃を受けたのを今でも覚えています。

迎えのバスが着いたと連絡が入り、歩いてバスに向かいました。その時に外の光景を見て、変わり果てた閑上の姿に唖然としました。

## 館腰小学校に避難

館腰小学校の体育館には、閑上だけでなく多くの方々が避難されていました。中は、暖房が効いていて、支援物資として毛布なども配布されていたので、寒さを防ぐことは出来ました。救援物資としてパンが配布されていたので、食べるものには困りませんでした。ボランティアの人が来てくれて、おにぎりを握ってくれたり、炊き出しなんかもいろいろあり、温かいお蕎麦や汁物をいただく事が出来ました。

大学は、5月の下旬まで休みだったので、避難所にいる間は、日中は本を読んだり、運ばれてくる救援物資の搬入のお手伝いをしていました。携帯電話が津波で流されたので、早く友達に会いたいという気持ちで過ごしていました。

避難所生活は、2か月くらいでした。その間、様々な方から支援を受けたので、とてもありがたかったです。

## ボランティアに加わる

避難所生活を通して、大学生として何かしなきゃという思いをずっと抱いていたので、大学が始まってからすぐに大学の災害ボランティアに登録しました。授業があったので、すぐに活動に参加はできませんでしたが、秋頃に私が住んでいる仮設住宅の集会所に行った時に、ボランティア活動をしている学生を見つけたので、ここでの活動だったらできるなど思いました。そして、活動していた人に声を掛け、次の活動から参加する事になりました。それから、何かボランティア活動があるたびに率先して参加していました。関西や関東から大学生がボランティアに来てくれて、合同でキャンドルナイトや催し物をやったりして、すごく充実した日々を過ごさせていただきました。

## 仮設住宅に

私は、以前は一軒家に住んでいたのですが、仮設住宅の中はだいぶ狭く感じます。住んでみて、閑上にいたときより山が近くなったと感じます。逆に海が遠くなってしまったので、夏に友達と海に行ったり、プールに行ったりという機会が少なくなりました。あと、花火を見に行くにも車や送迎のバスを利用しなくてはならなくなった事に不便を感じます。

しかし、悪い事ばかりではありません。ボランティア活動などを通じて、それまで顔も知らなかった方々と接する機会が増えて、人のつながりというのを強く実感します。関西や関東から大学生がボランティアに来てくれて、他の大学生との交流が出来た事も非常に大きいです。

## 閑上の良いところ

海は近いし、空気は良くて過ごしやすい。それと毎週日曜日に朝市があって、新鮮な野菜や魚を買うことができ便利です。

あと、「なとり夏まつり」の花火ですね。ものすごくきれいなんです。毎年、友達と見に行っているんですが、いつ見ても感動しますね。

### 地震の時

元は、閑上3丁目。日和山のすぐ近くです。地震の時は、自宅にいました。すごかったです。立ってられませんでした。玄関から逃げられるような状態にして、太い柱のところにつかまっていました。下駄箱は倒れるし、これはまずいと思いました。とてつもなく揺れて、一瞬だめかと思いました。その時は1人でいて、心細かったです。しばらくして、大きな揺れが止みました。「すぐ家の中を片付けなくては」と思い、夢中になって片付けをしました。茶の間の仏壇の花瓶は、倒れたけど壊れなくて少し安心しました。台所は、冷蔵庫は倒れてなかったけど、あたり一面凄かった。とにかく、早く片付けることにばかり夢中になってました。

外に出て道路に行きました。そしたら、みんな近所の人たちが出てて、瓦落ちたとか、みんな3分ぐらい話して、ほんと安堵したような顔でした。宮城県沖地震が来るって言われて、オオカミ少年じゃないけど、何回も言われてきましたから。今後は、それほどの大地震にはあわずに済むと思うとほっとしました。

片付けに必死でした。多分、皆さんもそうだと思います。30分以上も片付けした後、停電に気付き、携帯のラジオを思い出し、スイッチを入れました。「津波が来る」と言っていました。でも大したことないと思いました。閑上には津波は来ないと誤った先入観を持ってましたから。津波が来ても、1mぐらいだろうと自己判断し、それでも車で逃げることにしました。とりあえず免許証とバッグだけ持って、着の身着のまま出ました。すぐ戻ってくるつもりでいました。避難する道路に迷いましたが、バス通り、閑上中学校、生協の通りは渋滞すると思い、斎場を通り、小塚原に行き、田んぼの中を宮城県農業高校方面に向かって、塩釜―亘理線の県道を西方に越えればと考え運転しました。その道路は、あまり車は通行していません。交差点を慎重に渡ってから、コンビニに寄りました。ひと安心しました。みんなコンビニでパンとか、食料品をいっぱい買ってるので、自分もペットボトルのお茶やパンを10個ぐらい買いました。その時コンビニの前の道路に、サラサラと水が流れてきました。まさかと思いながら慌てて車に乗り、すぐそこから脱出しました。間一髪でした。さらに西の、イオンモール名取エアリ方面に脱出しました。ラジオもつけてて、仙台の藤塚あたりに200人が砂浜に打ち上げられたと聞いた時は、恐ろしくなりました。仙台空港にも津波が来たニュースで、事の重大さを知りました。それでも我が家は、床下の水位だと思って戻ろうとしました。この時まで、まさか津波で閑上の町が失くるとは夢にも思いませんでした。

消防団がいて、「もう行けないよ」と言われ、2か所の検問で戻れないことを知りました。バイパスに出ようと走行したが、大渋滞。車が全然動かさず困ったが、増田に弟がいるから、とりあえずそこを目指し、何時間もかかって着きました。雪もちらついたり、夜になり、泊まることにしました。主人は仕事でしたが、携帯はつながりません。娘に何回も電話しましたが、つながらず心底困りました。それでも夜遅く連絡が取れた時は、ほっとしました。

## 公民館には避難しなかった

多分私は、渋滞すると思ってました。とにかく県道より西に逃げることに決めました。逃げる際も県道は、大渋滞するからそこを走行してはまずいと思い、農道を走りました。

## それからの避難

弟の家には2泊しました。ガソリンも少ないし、動かなくていいと弟に言われ、みんなで買って来たパンを夕食にしました。2日目は、姉がおにぎりを大量に持ってきてくれました。その後、利府町の次女の家で生活しました。長女は、仙台市にいたので孫の世話、食事作りなどそこでも生活しました。食料確保が一番大変でした。

だいぶ期間が過ぎてからアパート探しを始め、美田園の物件を探しましたが、空きがなく、今のアパートを借りました。入居したのは4月中旬からでした。第2の人生が始まりました。

## アパートを借りる

友達もいなく、近所の付き合いもなかったから。家財道具など何もかも流出したので、不自由と戸惑いは大きかったです。今まで何気なく生活していたのが、一瞬にして慣れない生活になったから、大変でした。家財道具、必需品の購入が思うようにいかずに苦労しました。冷蔵庫、ガス台、電灯など売り切れ状態でしたが、かろうじて購入、確保しました。

このような生活は、もちろん今まで経験したこともありません。必死なだけで、なんとなくの生活です。閑上の地域の方々が、当方面に生活され、時に顔見知りの人と会うと、お互い無事を確認し、いろいろとお話をしたり言葉をかけあっています。懐かしさがこみ上げてきます。とてもうれしくなりました。

日本赤十字からの支援物資は大変ありがたく、生活を援助していただきました。また、いろんなところや企業からの心温まる支援は、私たちが元気づけるものでした。遠い長野からの炊き出しで、みんなでいただいたおいしい蕎麦など涙が出る思いでした。借り上げ賃貸も徐々にご配慮いただき、ありがたいと思っています。また、家賃も全額補助していただき感謝しています。

## 一番悲しいのは亡くなった人のこと

一番悲しいのは、亡くなった人のことです。親戚、友人、知人、近隣の人など大勢の方々が亡くなって、言葉を失いました。震災前まで気軽にお茶っこしたり、お話した方々が一瞬にして命を奪われたのですから、滅入ってしまいました。

## 今後のこと

もう閑上には、戻らないつもりでいます。土地をかさ上げしても、住みたい気持ちがわいてきません。何十年も住んで、閑上の良さは心に十分染みております。思い出は、一生胸にしまっておきます。

## このサロンは

(名取市では、みなし仮設住民に対して何か所かの拠点サロンを置き、支援員を配置している)

このサロンは、去年の確か24年12月17日に開設していただきました。閑上に住んでいても、初対面の人がほとんどです。サロンで何回かお話したりして、友達になったことが一番大きいです。同じ被災している者同士、心が通い合えるのだと思います。福島からの方も交え、和気あいあいという雰囲気です。バッグなどの物作りや、西本願寺さんなどの遠方からの元気づけの支援は、滅入っている心を明るくします。私は、ストレッチにできるだけ欠かさず参加しています。皆さんが集まると、笑い声が絶えません。本当にサロンに来てよかったと思います。ありがとうございます。

## 閑上の良いところ

これは、いっぱいあります。気軽に言葉をかけあって、話しやすいところです。事件とか事故もないし、安心して住んでいられるところです。私も嫁にきて、ここで一生を終えたらいいなと思っていました。食べ物も豊富だし、気候もいいし、地域の人もいい人ばかりです。みんな知っているから、安心感があります。いつも子どもとか孫に自慢していました。ここはいい地域だと。閑上は雪も少なく、冷房もいらず、食べ物も豊富で、新鮮な魚が獲れて生活はしやすかった。

大震災にあって、とにかくこれは、天災だから仕方ないと思ってます。日本の国に生まれて良かったと思います。国を挙げての復興や支援、全国からの多数の方々からの支援、応援に深く感謝申し上げます。これからの人生を前向きに生きたいと思います。



### 地震の時

当日地震の時は、私と妻と一緒に仕事をしてたんですよ。家にじいちゃんと、ばあちゃんがいまして、「様子を見て来てくれ」って、妻をまず閑上に行かせたんです。そこに上の息子が現場から戻ってきまして、息子にも「今、かあちゃん行ったから、閑上に行ってちょっとじいちゃんと、ばあちゃんの様子見て来て」ってことで、行かせたんです。私は、仕事場の片付けをしないといけないと思って、残ってたんです。その後、20分・30分経っても連絡が取れないし、「閑上どうなってるんだ」と気を揉んで、私も車で閑上に向かったんです。

閑上に行ったら、案の定家の中がごちゃごちゃになってまして、家に入れなくて、じいちゃんと、ばあちゃんと妻と上の息子、中学生の下の息子と、あと近所のおじちゃんと、おばちゃんが家の前にいたんですよ。じいちゃんと、ばあちゃんが寒そうにしてたんで、息子たちに「じいちゃんと、ばあちゃんをまず避難所に置いて来て、暖かいところに降ろして来い」ってことで行かせたんですよ。私と妻は、家の中を被害状況確認っていう形で見てたんですよ。そしたら何分も経たないうちに、消防が「津波来るから、早く逃げなさい。逃げなさい」って大声で騒いでいたんで、「うちらも避難所に行くか」って、玄関に出たら、もう津波が見えたんですね。まず足、くるぶしぐらいまでの波が見えまして、すぐに車に乗ろうと思ったら腰ぐらいまでの波が見えたんで、「あっこれはだめだ」と思って、すぐ玄関を閉めて2階に上がったんです、2人で。

### 家ごと流された

2階に上がれば、もう大丈夫かなって思ったんですけど、2階に上がった途端に「ドーン」っていう波が来て、一瞬どういう風になったか分からないんですけども、家ごと流された状態だったんですね。窓開けて見てたら、とにかく水は来てるし、自分たちはどうなってるか分からないですすね。たまたま私の家は、屋根裏部屋があったんです。屋根裏の倉庫みたいなのが、2階でも水が入ってきそうになったんで、「ここじゃだめだ」ってことで、まず屋根裏に上がりまして、屋根裏の窓を開けて見たら、また流されてどこにいるか分からない。そうこうしてるうちに屋根裏にも水が入ってきそうになったんで、外に出て、がれきに上がりながら、屋根の上に登ったんですよ。周りを見渡して、その時にはもう波もいっくらか緩やかになりまして、なんとか助かったかなって気持ちにはなったんですよ。それでその時は、もうどこまで行ったのか、周りも水だらけで分からないですし、家もまだ揺れてますし、余震もありましたし、とにかくおっかないからということで、屋根の上に座ってたわけです。

そうこうしてるうちに雪が降ってきまして、屋根の上も凍ってきたんです。寒かったですねとにかく。県道10号線があるんですけど、ファミリーマートがあって、小学校があって、その間まで流されたんですね。2キロぐらい流された感じなんですかね。家に上がる時に靴脱いだんですよ。だから家に入る時に靴下のままで、屋根の上に上がる時に靴下が濡れたんですよ。屋根の上に上がって安心したんでしょうね。もう足が冷たいって靴下を脱いで投げってしまったんですよ。その時には、周りも見えなし流れも緩やかだったんで、後は水が引け

ばもう逃げられると思ったんです。結局水が引かなくて、裸足のまま屋根の上にいる状態だったんです。次の日は足が倍ぐらいに腫れましたね。元に戻るのに1年かかりました。もう感覚がなくて、歩くのもひどかったです。

夜もヘリは飛んでました。でも、救助するっていうようなヘリではなかったですよ。はるか遠く上の方を、ずいぶんひっきりなしに飛んでました。サーチライトとかも当ててました。ずいぶん手も振ったんですけどね。手を振ったり、携帯の電気付けて振ったりしたんですけど、結局誰も気付いてくれませんでしたね。

## 翌日救助された

救助されたのが、次の日の夕方4時ぐらいです。自衛隊のボートで救助されました。25時間ぐらいいましたね。屋根の上に体育座りして、このまんまですよ。動けないんです。1回お互いに寄ろうと思ったんですけど、滑って落ちそうになったんです。もうそれからは、動けなくてね。妻と2人でくっついてれば暖かいんでしょうけど、2人は3メートルぐらい離れてるんです。そこから動けなくなりました。

次の日の朝7時・8時頃になったら、いくらか水が引いて、県道10号線が見えてきたんです。7時頃には歩いてる人がいたんです。家の様子を見に行くとか、あとは中学校や小学校に避難した人たちが帰って行くとか、そういう人が私たちに声をかけてくれたんです。消防呼んでくれるからとか、自衛隊に話してやるからとか、みんな言ったんですけど、なかなか来なくて。最初に朝、私たちに声をかけて閑上の様子を見て帰ってきた方が、「まだいたのか」ということで、近くの自衛隊の仮の基地になってた所に行ってくれて、それで自衛隊と役所の人を連れてきてくれて、やっと救助してもらったんです。

その後、自衛隊のジープが迎えに来てくれたんです。当初、足が感覚無し、こんな腫れてたし、俺もちょっと心配だったので、「とにかく、病院かなんか診てもらえるところに連れて行ってくださいませか」と自衛隊の人に言ったんです。だけどその時、やっぱり情報が錯綜しててね、病院がダメ、あとそういう医療関係のところも分からなかった。掴めないんです。だからいろいろすったもんだしてたんす。なんか無線やいろんな人に聞きに行ったりして、とにかく横になれる避難所、どこでもいいから連れて行ってっていうことで、その時は文化会館がいっぱいだって言われて、増田小学校に連れて行ってもらいました。とにかく、着いてすぐ寝ましたね。

## 感動の対面

家族も、3月12日に閑上から連れてこられて、文化会館に当初連れてこられたけれども、親父たちの行方が分からないっていうことで、市役所に行けば何か情報を得られるかっていうことで行ったんですけど、そしたら私の同級生なんかいっぱいいたらしいんです。私の息子だって分かって呼んでね。「昨日の夜、屋根の上にいるってことで連絡取れたけども、それ以来取れてないけど大丈夫だ。お前の親父ならなんとか生きてる」と言われて、ずいぶん力になったって後から言っていましたね。私たちは、ほんとにラッキーだったんです。

## ボランティアのこと

結構ボランティアとかも、来ましたね。やっぱり力を付けてもらいましたね。今までボランティアっていうものに対して、関心ってあまりなかったですけど、ボランティアっていうのは、ほんとにすごいことだと思いますね。まあ1回きりで来た人は、いっぱいいますよ、それでもいいんです。1回だけでも「みんな頑張ってくれ」って来てくれたのは、ほんと嬉しいことなんです。2年数か月経ってみると、長く来てもらえる人っていうのは少なくなってますし、貴重な人たちですよ。みんな良くしてもらって、ほんとにもう家族みたいな形になってますからね。顔見れば誰々さんって分かるし、「何だ今日調子悪いんじゃないの」っていうのも分かってくるようになりましたしね。だからね、それはうんとありがたいです。

ボランティアの人って、ほんとにやってあげたい、あげたいっていうんじゃないくて、ほんとに力になりたくて来てる人たちなんですよ。

## 神戸の人たちも同じことで悩んできた

私、平成25年4月に神戸に行ってきたんですよ。復興してきた地域の自治会の人たちの話を聞いてきて、同じことなんですよね、あの人たちも。いま私たちが悩んでることも、あの人たちは悩んできたわけですよ。聞くと、やっぱり1年・2年経つと、違うボランティアの人たちがいっぱい来て、やっぱり「はっ」と思うボランティアの方がいて、「あんたたち、何しに来たの」と聞いたことがあるんだって。「いや、ボランティアに来たんですよ」と、なんかこう大きな顔して言ってたらしいのね、その人たちが。だから、「あなたね、ボランティアっていうのは、そんな大きな顔してボランティアって言うんじゃないよ」「ボランティアは、誰も知らないうちに来て、誰も知らないうちに物事をやって、誰も知らないうちに帰っていくのがボランティアなんだ」「こんな大きな顔してね、私ボランティアに来てます。なんて言う奴誰もいないよ」って言ったら、さっと帰って行ったんだって。そう自治会長さんが言ったから、まさにそうだなと。今、俺たちが思ってることがそうなんだなって思いました。

## 今後のことは

戻りたいっていうよりも、やっぱり閑上の人たちと暮らしたいんですよ。場所はどこでもいいの。今まで閑上で暮らした人たちと、暮らしたいっていう思いなんですよ。

やっぱり一番いいところは、つながりですかね。一番いいと私が思うのは、家の親父82歳で、閑上にいる時は自転車ね、うろうろ歩いたって何も心配ないですよ。どこに行ったって、どこの人か分かるし、自転車でひっくり返って道路で倒れてたといったって、必ず誰か連絡よこしますよ。分かんない人いないから、ほっとくっていう人もいないんですよ。だから私たち家にいないで、外で仕事しても全然心配ないですよ。だけど、美田園なり愛島なりに行って家を建てた時に、じいちゃん、ばあちゃんが心配で、家に2人で置かれないよね。

年寄りだってねえ、自転車でちょっと行けば、誰々さんの家でお茶飲みできる。それがほんとに閑上のいいところだったのかなって。子どもだってね、あの子どもはどこの子どもっていうのがすぐ分かったし、あそこの孫はどこの孫って言えばすぐ分かったし、閑上だけじゃないでしょうけども、それが強かったですね、閑上は。それを残したいですね。



### 地震の時

年齢は66歳です。震災前に住んでいた場所は閑上2丁目、家のすぐ前を貞山運河が流れていました。

地震の発生時は散歩中で、自宅から30分ほど離れた仙台東部道路の真下にいました。大きな地鳴りがして、それから揺れ始めました。ものすごい揺れでとっさに田んぼのあぜ道側に逃げて、蛙のように四つん這いになっていました。やっと揺れが収まり、とにかく急いで家に戻る途中、仙台市の上空あたりのヘリコプターから津波警報の情報が聞こえてきました。町頭公園まで来ると、たくさんの人が集まっており、そこで知り合いの人からラジオで6mの津波警報が出ていると聞かされ、「早く避難を」と思いました。

そこから避難所に指定された閑上中学校まで、まわりの人たちと一緒に急ぎました。閑上中学校の近くの親戚宅に立ち寄り、避難の呼びかけをしてから、私は中学校には行かず、自宅に向かって走りました。自宅にいるはずの主人は普段から「閑上には津波は来ない」と言っていたので、避難はしていないと思ったからです。

我が家の近くに来て、ブロック塀の外から声をかけると、主人は庭に出ており、津波の情報を伝えても反応はいまひとつでした。時間がないと思い、車で閑上中学校へ避難しようと、主人にエンジンをかけてくるように頼み、私は非常持ち出しリュックや携帯等を取りに家の中に戻りました。主人はカーナビで10mの大津波警報を伝えたのを見て、瞬時に避難のスイッチが入ったそうです。急ぎ身支度をして、隣や前の人に声がけをし、1人を同乗させ、更に足の不自由な1人暮らしのお年寄り宅へ立ち寄り、4人で中学校へ行きました。

途中出会った人たちにも、車を止めて避難の呼びかけをしました。主人は足の不自由な方を連れて中学校の3階に上った時に、私は車を校庭に止め、2階に着いた時に、津波が町をおそいました。目の前に閑上の町が一瞬にしてのみこまれる様子が見えて、余りの出来事に声も出ませんでした。まもなく雪が降ってきて、中学校は寒く、夜になっても強い余震が続き、更にあちこちで火事が起きており、恐怖の中で一夜を過ごしました。

### 翌日は

朝になり、たくさんの人が家族や親類を探しに、ずぶ濡れになりながら来ました。なかなか水が引かず、やっと午後2時過ぎに中学校を出て、徒歩で30分程度移動して、迎いのバスで閑上を離れました。その後、館腰小学校の体育館に着いて、おにぎりやパンが配布されました。それまでは飲まず食わずでした。

### アパートを借りる

体育館内は寒かったので、主人と私は体育館を出て、歩いて1時間位の親戚の家に向かい、2週間お世話になり、その後アパートを借りました。すべて失ってしまったので、義兄から車を借りたり、また遠くの親戚、友人、知人の大勢の方から食料品、日用品、衣類などのプレ

ゼントが届けられ、本当に感謝に涙する毎日でした。

私は地区の民生委員をしていました。親しく関わってきた住民の方が100人余り震災で犠牲になり本当に悲しく、くやしい思いでいっぱいです。町内会では毎年防災訓練など災害への準備は怠らなかつたのですが、津波に対しての備えは想定外でした。毎日のように住民の方たちとのお別れがあり、それは6月まで続きました。

## 現在は

現在は仮設住宅を定期的に訪問し、話を聞いたり、相談に乗ったりしながら、みなさんと寄り添っていければと考えています。また、全国の民生委員さんが被災地の視察に来てくださった時は、他の委員さんたちと一緒に、閑上の現状や震災当時の自分たちの思いや行動、そして現在に至るまでの活動などをお話しています。すべての物を失い、親しかった人たちとの突然の別れから、少しずつではありますが前を向いて歩いていかなければという気持ちになっています。

## 閑上の良いところ

閑上に暮らして40年が過ぎますが、始めの頃は海辺の元気な人たちに圧倒されてなじめない時期もありましたが、今はすっかりなりきっています。気候も暖かく、魚も野菜も新鮮でおいしかったです。友達も知り合いもたくさんできて、楽しかった日々が一瞬にして失われてしまったことが、いまだに信じられません。

## 今後は

現在は、増田地区のアパートで生活していますが、いずれささやかながら我が家を持ちたいと主人と話し合っています。閑上に帰るつもりでいましたが、町の復興がなかなか進んでいない状況なので、自分たちの年齢を考え、別の場所も今は視野に入れています。生かしてもらった今を大事にし、自分に出来ることを頑張っていきたいです。多くの人からの励ましと支援に感謝し、小さな我が家の完成を、みんなに報告できる日が早く来ることを楽しみに、主人と共々健康に注意しています。

## 地震の時

地震の時は、ちょうど仕事が休みだったので家にいました。揺れたね、かなりね。そして長く揺れたでしょ。まず行動としては、落ち着いてました。女房があたふたしてる時に、「まずは落ち着け」と。外に逃げようとしてたから、「逃げるな、中にいろ」と。ちょうど孫が前の日から泊ってたんで、孫を抱っこしながらアイスを食べてました。そのまま地震が収まるのを待ってました。その時、まだテレビが映ってたんです。それでまず地震のニュースを見て、「女川で10cmの潮位を感じました」という言葉を聞いて、それで「あぁ、なんだ大したことない」って思いました。

そこから外に出て家の物がどうなってるか確認のためぐるっと回ったら全然問題がなかったんで、それで一応車も貞山堀沿いに移動しておいて、家に戻ってまず何かあったら困るなっていうことで、家の中のガスや電気、こういったものの全部の元栓切ったり、片付けをしたり。大体30分ぐらいやったのかな、それから貞山堀を見たんですよ。そしたら、全然水がない。「じゃあお母さん、一応避難しようや」っていうことで、閑上中学校に車で避難しました。その時、地震から30分後でも全然車は混んでなかったです。

避難してからは、ずっと校庭にいたんです。海を見ると、真っ黒くなってきたんで、「あぁ、あれが津波なんだろうな」と思って、それに対してはもう対応する余裕はあったんですよ。ところがまさかこっちの、川の方（北側）から、真横から津波が来ると思わなかったんで、私は中学校の校庭の一番東の端、野外音楽堂っていうのがあるんですけど、その脇にいて、そのまま津波に流されました。中学校の一番西端まで流されました。

運が良かったんですよ、田んぼの方に行ったら多分助からなかったでしょうね。校庭の前を流れたから。ちょうど中学校のプールがあって、プールがちょっと高くなってるんでそこで波がぶつかって波の勢いがそこで弱くなって、それで浮き上がることが出来たんです。それで助かりました。その時は、私と娘が同じ所に流されました。

がれきは普通は来るんですけども、ちょうど中学校と、生協（スーパー）前の道路を挟んで田んぼなんです。だから最初がれきに来る前に水が来て、まだがれき来ないから、私も無傷で、本当にかすり傷ひとつなく、浮き上がることが出来ました。大変だったんですけども。まず自分ではこの水は飲んじゃいけないなって思ったから、まずは口は絶対開かず、目は開けたけど、目を開けたら真っ黒だったんで。その後たまたま浮き上がった場所に、流れてきた屋根があったんです。それにすがって、女房よりもまず一緒に流された娘が心配で、そしたらすぐそばに浮き上がってきたんですすぐ引き上げて、そしたら、娘の足が、血だらけなんで、「なんだ」って言ったら、どうしてけがをしたか本人はもう全然分からないんですよ。

風景は、私は見てないんです。ただ私が怖かったのは、流れて来て、すがりついた屋根、それにすがっていた時、目の前を人が流れて行くんですよね。私を見てるんです。でも私はどうすることもできなかった。私もほんとに5~6mずれたら、そのまま速い流れの方に行っちゃったでしょう。

その後、私はある程度水かさを確認して「ああこのぐらいだったら中学校に移動できる」と思い、中学校に移動しまして、女房と孫の安否を確認して、娘の所に戻りました。

その後、娘と中学校に行って、娘のけがが大けがだったんで「12日の朝一番に運びます」という連絡をもらいまして、ところが待てども待てども全然来ない、結局一番最後、暗くなった頃にやっと車が来てくれまして、それで第一中学校に避難しました。娘は市の職員が車で待機してて、そこから今度病院まで連れて行ってくれました。

### 避難所へ

第一中学校へは私、女房、娘、孫と4人で13日までいました。そのあとは、娘が上余田のアパートに入っていたので、そこに移動しまして、そこで約1か月間ぐらいおりました。

娘が怪我をしていて入院してるし、それから孫がいるし、まず女房が面倒見なくちゃいけないっていうことで、別のアパートを探して、そこを借りました。

田高交差点が近くて、特に震災でダンプが多く通るようになりました。常に地震が来てるような感じで、それからうるさい。特に、私は前の会社の時は夜勤やってたから、日中寝られないんですよ。

### 仮設住宅へ

2012年の11月に植松入生仮設住宅に引っ越してきました。

仮設には、いろいろな所から来ているが、ここに来てから新しい知り合いが結構出来ました。私はここを希望したんですよ、ここには7丁目の人がいるんで、それで希望しました。

### 今後のこと

震災に遭った時から「絶対私は閑上に戻るぞ」と思っていました。ただ女房がね、「もう絶対いやだ」って賛成はもらえなかったんです。じゃあ上から順序に、「この場所はどうか、この場所はどうか」っていうことで、いろいろ探したんだけど、そしたら「ここも嫌だ、ここも嫌だ」となって「じゃあお前はどこに行きたいんだ」って言ったら、「やっぱり最後は閑上に戻りたい」って。女房がもともと閑上なんで、私は、最初から戻るつもりでいたから、私の元の土地、駐車場、カーポートはなくなったけど、駐車場の石とかそういったものはまだ綺麗に敷いてあるんでそのまま残してくれて、そのままにしてたんです。そしたら災害危険区域になってしまっただけ。もうそこに家を建てられないんだな。私たちは一応集団移転扱いになりますので、閑上中学校あたりなんですよね。

### 閑上の良いところ

私は釣りが好きなんですよ、海釣りがね。投げ竿で思いっきり遠投する、あれ最高に爽快ですよ。砂浜だとね、100m以上投げるからね、それがもう最高のストレス解消ですよ。以前は時間が空いてる時はいつでも行けたんで。でもやっぱりこの震災で行方不明者が四十何名もいるという話を聞いたらね、釣りをする気は起きないね。そして今は閑上の海岸入れないでしょ。

### 地震の時

家で洋裁の内職をしていました。また、ハーモニカが大好きで教室に通っていました。津波がなければまだやっていたんだけどね。みんな家ごと流されてしまいました。実家は仙台市で、そこから閑上に嫁に来てもう52年だね。閑上は住みよい所でしたね。

揺れはすごかったですね。その時テレビ見てたんだけど、わらわら（慌てて）外に出て、家の前が草むらになってたから、そこに座り込んでしまいました。余震も多かったからしばらくそこにいたんです。そのうち向かいの方が「今おっきな津波が来るから避難した方がいいよ」と言われて初めて家の中に入り、ジャンパー着てリュックを背負って、歩いて200m位の閑上中学校に行ったんです。

### 閑上中学校では

津波は見ました。中学校の3階に上ったんだけど、その時はもう各教室ともいっぱいになってました。15分位経ってから、津波が来ました。家や車やがれきなどが流されてきて。水もどす黒い色で、本当に映画でも見てるみたいだったね。この先どうなんのかと思ったね。中学校には何も食べ物なくて。次の日、12日の午後2時頃、自衛隊が仙台東部道路あたりまで人が通れるぐらいまでがれきを片付けてくれて、そこまで歩きました。ずい分遠く感じました。大型バスが4～5台来ていたんですけれども、その時間だとがれきがまだまだあって、そこまでしか来れなかったようです。それでバスに乗せられましたがどこに連れて行かれるのか分かりませんでした。結局、館腰小学校の体育館に運ばれました。

### 避難所へ

私は、7年ぐらい前に主人が亡くなってから1人暮らしだったんですね。避難所では不安だったけど、みんな近所の人たちだったので安心しました。着の身着のままでした。お風呂は10日に1回くらい入りました。極楽湯（銭湯）とか秋保温泉に連れて行かれました。妹が迎えに来てくれてお風呂に入ったりもしました。着替えがないので出かけた時に買ってきたり、みんなにもらったりしました。食べ物は、わりと不自由はしませんでした。自衛隊の方々が炊き出ししてくれたので、とてもありがたかったです。12日の夜、おにぎりを食べた時は本当においしかったです。また、水も電気もつかないので大変でした。

### 家を持っていかれるとは思わなかった

家は流されたんです。勝手（台所）の方だけちょっと残ってました。この辺（1丁目）はみな残ったんだけど、家のまわりは道路や田んぼだったので、そっちからもこっちからも津波が来てごちゃごちゃにされました。地震の時は、古い家だったんでいつ倒れるかと思って、外で見ていたんだけど倒れませんでした。だから津波さえ来なければ住めたのに、みんな持っていかれてしまって…家の2階が道路にたまったがれきの上にポコンと乗ってました。1



階が流されて2階がね。よもや家まで流されるとは思わなかった。

### **婦人会の活動**

仮設住宅には平成23年5月3日に入居しました。ここの仮設には1丁目、2丁目の人たちが住んでいて、婦人会の人たちもみなばらばらで何をするにも大変です。閑上婦人会というのは各地区に分かれていて、その中に各支部長がいるんです。私もその中の1人で、ある婦人会の支部長を務めていました。震災の年は行事は何もできなかったのですが、平成24年25年と市婦連大会の時に、閑上保存会の閑上大漁踊りをしました。増田西公民館で踊ったり、名取が丘公民館で踊ったり。閑上にいた時は、公民館祭りとか町民大会とか行事がいろいろあったから、その度に婦人会でバザーをするため弁当を作ったりなどの活動をしていました。

### **仮設住宅では**

仮設住宅に入った時は、荷物はあまりなかったので、1部屋でもいいと思っていましたが、月日が経つにつれて荷物も増えて、4畳半一間ではとても狭くなりました。もう2年5か月も経ちますからね。週1回ボランティアに買い物に連れて行ってもらえるので助かっています。集会所でお茶会があるので、行って楽しんでいます。

### **閑上の良いところ**

バスの停留所が近い、病院、生協（スーパー）、郵便局、店も近いし、道路も平らなので自転車でみな用足し出来ました。浜風も、夏は涼しくてほんとうに住みよい町でした。

### **今後のこと**

自分の帰る所は閑上だね。1日も早く復興してもらいたい。それまで健康に注意して過ごしたいと思っています。

### 地震の時

私は1人でお茶を飲み、テレビを見ていました。地震に驚き、家を飛び出して庭先をウロウロしていた所に、町内の副会長さんが来て10分ほど地震のことを立ち話していました。その後、一応老人世帯の安否確認のため、2人で軽トラックに乗っている時にラジオをつけたら、津波が来ていることを知り、急いで15世帯ほど回りました。途中、何人かの人にどこに避難したらいいのかと聞かれましたので、「自宅の2階か谷地の高台に逃げた方がいい」と言いました。そうしているうちに貞山堀の方から黒い砂煙が見え、橋の上で「津波だ！」と泣き叫びながら公民館に向けて走って行きました。途中副会長は車から降り、公民館の方へ行きました。

### 津波に流される

副会長を降ろし、公民館の前の道路を走っていると、自宅に向けて波が進んで行くのが見えました。私は自宅にいる妻のことが気になって、そのまま無我夢中で軽トラックを走らせましたが、橋が地震で壊れて交通止めになっていたため、車から降りました。腰まで水に浸かり、目の前の小屋の上に5、6人の人が見えたので助けを求めましたが、その後に津波がまた来て流されてしまいました。無我夢中で近くのがれきにしがみつき、手を離さないよう必死でした。

### 頑張れという声に励まされた

仙台東部道路の上に電気を持っている人が見えたけど、声を出す力もなかったです。がれきの上に上がろうとしても揺れて大変でした。足を使って少しずつ上に上っていったら車が浮いているのが見え、そこに上がろうとしてもツルツル滑って上がれませんでした。左右を見渡すと大きい船が見えて、「その上に行けば助かるんじゃないか」と思い、必死に四つん這いになって10mくらい歩きました。私に気付いた人が電気をつけて「頑張れ」と声をかけてくれた時、「やっと助かった」と思い安心しました。その人が消防に連絡してくれてクレーン車でボートを下ろして助けてもらいました。その後バスに乗り、仙台市立折立小学校で濡れた服のままストーブで一晩あたりりましたが、それでも寒くて、柔道着を1枚貸してもらい朝が来ました。

次の日、ボランティアの人たちによる安否確認の時に自分の住所と名前を言ったら、偶然にも仙台市立愛子小学校に妻がいることを知らされました。それで今度は愛子小学校に移って4日間お世話になりました。

### 避難所に

その後は、名取の文化会館にずっとお世話になりました。妻は避難所生活に慣れなくて体調を崩してしまい、「頭痛い、頭痛い」と毎日毎日言っていたので、友達の家を借りました。

私自身は、文化会館に行ったり来たりしながら、お互いの情報交換をしていました。

### **雇用促進住宅へ**

今は妻と2人で住んでいて、息子夫婦は別の棟に住んでいます。上を見ればきりが無いけど、自分は車の運転が出来るし、また健康なので仮設の友達の家に行っています。いろいろな話をする中で、農家をやっていた人は、「野菜を作りたくても作る場所がない」と言うけど、「健康でこうして生きているだけで幸せだ」と口々に言っています。

私も今は1つ農機が残ったので、修理をして自分の土地に毎日通って畑を耕して、トマト、キュウリなどを作っています。みんなに「おいしい」と言ってもらえるだけで幸せです。

### **小塚原の良いところ**

津波の前は、近所の人と家族のような付き合いが出来て、毎日、朝昼とお茶飲みに行ったり来たりして、楽しく暮らしていました。いろいろな行事への参加も協力的な人が多かったですね。

### 地震の時

私は、亘理の荒浜の保育園に孫を迎えに行って、もう少しで保育園に着くってところで地震にあって、地震が落ちつくのを確認して、それから保育園に慌てて行ったら、子どもたちがみんな園庭に並んでいました。そこからうちの孫を連れて、すぐ我が家へ向かいましたが、道路はアスファルトが剥がれて、ごちゃごちゃでしたが、その時はもう夢中で帰ってきました。

家に着いて見てみると、家の周りの塀は落ちてたんですけど家はあったんですね。中に入ってみたら、食器棚とかいろんな物がひっくりかえっていたので、「ああ、今日これ片付けて寝なきゃな」と思ってました。その時、地元の消防団の人だと思うんですけど、「津波が来るんだよ」って言って回っていたそうなんですが、私には聞こえませんでした。そのあと弟が町内会の役員をしてたんで、私の家に来て「何してるの早く逃げろ」って言われて、それまで津波が来ると思わなかったものですから、慌てて仙台空港に孫と夫と3人で行きました。仙台空港ターミナルビルが避難場所と決まっていたし、前の年のチリ地震の時に1回避難したものですから、頭にはもう「津波の時は、仙台空港だ」って、それは分かってたんです。

### 避難所へ

仙台空港ターミナルビルには、3日ほどいました。1日目は国際線の待合室に入ったんで、すごく寒かったんですよ。1世帯に毛布1枚という割り振りだったのと、食事は「萩の月」(お菓子)とジュースと笹かまぼこですね、それが3食です。それをもらえたんですね。トイレは水が流れなくて、みんな詰まってだめだったんです。だから最後には大の方はビニールの袋に新聞紙を敷いて、自分のお尻にあててするっていうやり方でしたね。だからどの部屋もみんなトイレ臭かったです。

避難したのは、夫と弟と保育園の孫です。3日目に第二中学校に移されました。第二中学校に来て初めて「おかず」が出ました。スパゲッティとお煮つけなどがいっぱい並んで、「好きなもの3品まで取りなさい」って言われて、それが初めてのまともな食事でした。長男が増田に家を建てて住んでいまして、避難所に迎えにきてくれたので、そのまま長男の家に孫を連れて行きました。

### 仮設住宅へ

美田園第二仮設住宅に来たのは、5月末で夫と2人です。こういう狭い家とか長屋とかが入ったことなかったものですから、すごく最初は緊張して「音出すなよ」とか、もう水出す音も掃除機の音もみんな聞こえるじゃないですか、だから最初はそれは神経使いましたね。入って1週間ぐらいは、もう頭を何かで圧迫されてるような感じがして、とつてもつらくて。それで、娘達が借りた家に1回泊まりに行ったんですね。そしたらなんだか自分の頭から「ぼー」って上に抜けるような感じがしましてね。それで娘の家に泊まって、また仮設に来てっ

という風に、少しずつここに慣れていきましたね。

### 今後のこと

集団移転を待っています。一戸建ての災害公営住宅を頼んでいます。寝て目をつぶると、前の家の様子が、こう「バーッ」と見えてきたり、あとはやたら心臓が苦しくなったり、胸が締め付けられるようになり、いろいろ体に異変が出てきたものですから。

前の家は、何回か見に行ったりはしていますが、土台だけで何もありません。近くで暮らしていた姉がまだ見つからないので、北釜に行くと大きな声で呼び掛けています。返事はもちろんありませんけどね。



◆ 表紙写真

閑上海浜プールの被害 撮影日：平成23年9月4日 提供：西口 なおみ	避難所(第一中学校) 撮影日：平成23年5月20日 撮影：名取市
箱塚桜仮設住宅団地の夏まつり 撮影日：平成23年8月19日 撮影：名取市	3.11 ゆりあげの集い 撮影日：平成24年3月11日 提供：一般社団法人 名取市観光物産協会

## 名取市における東日本大震災の概要

平成27年3月

編集 名取市 総務部 震災記録室

発行 名取市

〒981-1292 宮城県名取市増田字柳田80

電話：022-384-2111

非売品